

第4章 これからの公共施設マネジメント

1. 松阪市の取組状況

本市では、「松阪市行財政改革大綱」ならびに「松阪市行財政改革大綱アクションプラン」のもと、公共施設の「施設仕分け」による最適管理を含めた行財政改革に取り組んでいます。

市町村合併以降も整理されずに手つかずのままの公共施設について、まずは現状を把握し公表することから始め、住民ニーズ、地域バランスを考慮し、限られた財源の中で、貴重な財産を持て余すことなく有効活用し、効率的な施設運営に取り組んでいくことは、これからの行政の大きな使命であります。

このようなことから、本市が保有するすべての公共施設について、「施設経営」の視点に立ち、建築物などの長寿命化による既存ストックの有効活用をはじめ、社会的必要性への対応は必然です。そして、設備投資・施設運営費の最少化や過剰・遊休などの課題がある施設の効率化を図ることにより、公共・公用施設の整備・維持運営に係る財政負担を軽減することを目的に平成26年4月より公共施設マネジメント推進室を設置し、全庁的に取組を進めていくよう組織体制を強化しています。

2. 今後の取組について

現在、各施設については施設を所管する担当部局が個々に維持管理を行っているところであり、類似施設や周辺施設等との業務やサービス内容、コストの横断的な比較ができていない現状があります。そこで、平成27年度の取組としては、施設を所管する各部局より統括推進委員（課長級職員）を選出し構成される「施設マネジメント推進委員会」において、全庁的な共有意識を持って、公共施設の老朽化等の課題に対応していきます。また、統括推進委員の下には各課、室より選出された推進委員（課長補佐級または係長級職員）を配置し、この委員会で各施設の「個別施設計画」を策定し「公共施設等総合管理計画」に反映していきます。地域住民には、「個別施設計画」をもとに説明会やワークショップを開催したり、分野別の市民討議会を開催し新たな提案等のニーズを集約し、それを新たな「個別施設計画」、「公共施設等総合管理計画」に反映していきます。

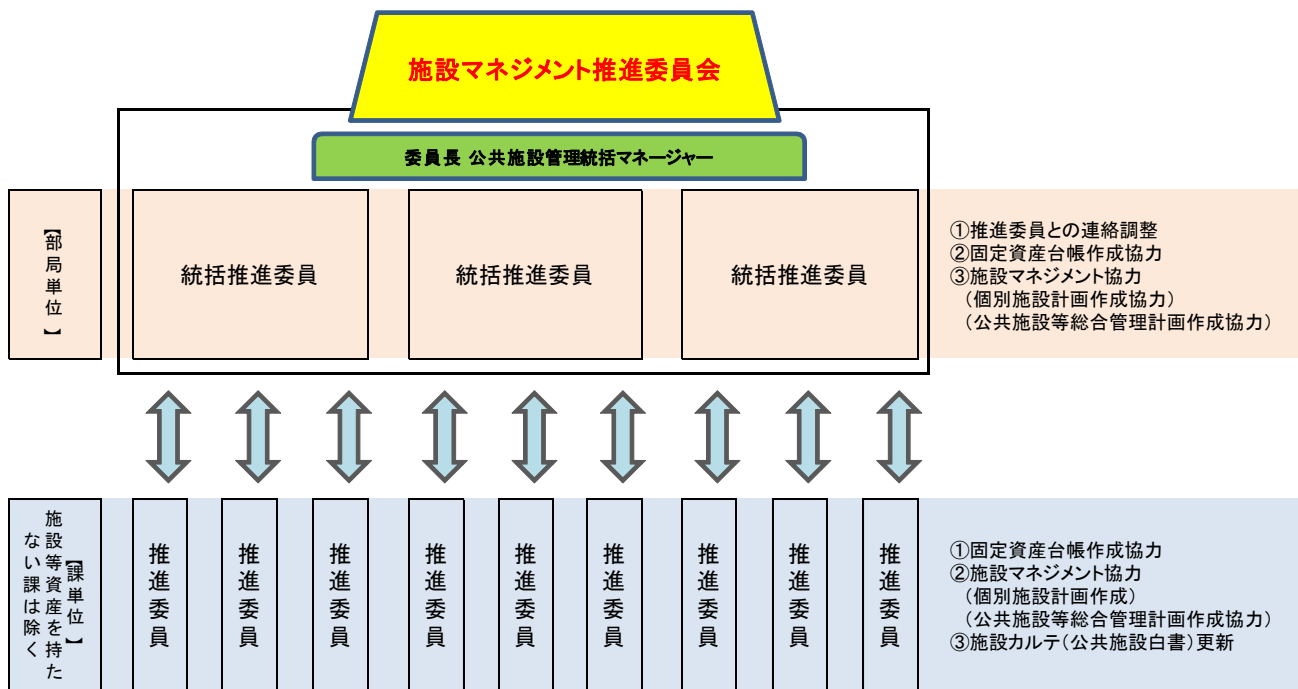


図 33 施設マネジメント推進委員会組織図

また、これらの取組の中で施設保有量の見直し、施設に係るコストの見直し、最適配置への見直し、運営形態の見直しについても考えていきます。

(1) 施設保有量の見直し

人口増加や右肩上がりの高度成長期に伴って多くの公共施設を作り上げてきましたが、第1章でも述べました人口推計による2060年の本市の人口は約10万人と現在より約6万人も人口が減少します。また、65歳以上の占める割合も38%を超える推計となっています。これからは、進行する人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化に対応し、本市の身の丈に見合った、適正な施設保有量へと縮減を行います。

(2) 施設にかかる維持管理コストの見直し

普通交付税の合併算定替の終了等による一般財源の大幅な減額に伴う歳入の減少【20頁グラフC 参照】、生活保護費等の扶助費の増加に伴う歳出の増加【21頁グラフD 参照】による普通建設事業費の減少【22頁普通会計の推移 参照】という現在の財政状況を鑑みると現状のまま施設にかかる維持コストを維持していくことは困難です。建替えや大規模改修等の更新費、維持管理経費について持続可能な財政運営を行うことができるように必要なもの、不要なものと判別を行い徹底した無駄を省き、維持管理コストの削減を図ります。

(3) 最適配置への見直し

本市は市域が広範であるため、単に中心部に公共施設を集中させるコンパクトシティを目指し施設の縮減を行うということではなく、沿岸部や山間部といったそれぞれ

の地域の実情に合った公共施設に対するニーズをよく精査し、公共施設の配置が極力偏ることがないように、また利用者に公平な公共サービスを提供できるように見直します。

(4) 運営形態の見直し

今後は行政主体の管理運営だけでなく、PFI¹や指定管理者制度などのPPP²等民間に委ねた方が効率的でサービスの向上に繋がるものに関しては、公民連携等を積極的に行い効率的な行政運営を目指します。

¹ PFI：Private Finance Initiativeの略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

² PPP：Public-Private Partnershipの略。官民連携。行政と民間事業者が協働で住民サービスの向上や事業効率のアップ、地域経済の活性化などに取り組むこと。

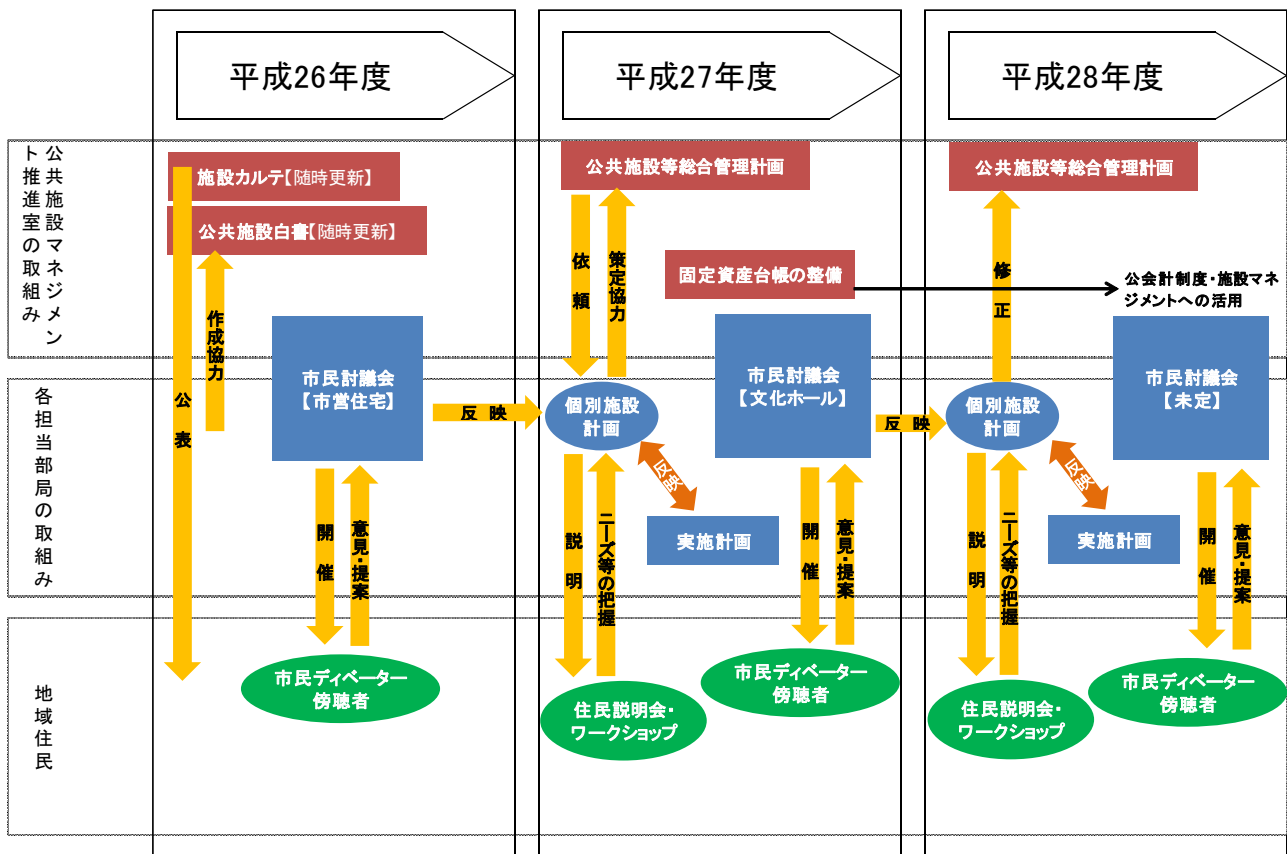


図 34 現在までの取組と今後のスケジュール

これまでは公共施設マネジメントの考え方についてまとめてきましたが、公共施設を利用するのは地域住民であり、本市に居住してみえる市民の幸せ、満足度をどのように高めていくかが重要になります。本市では総合計画「市民みんなの道標（みちしるべ）」～未来につなげるまちづくり計画～【平成26年度～平成29年度】において、「市民みんなが一人ひとりの痛みを寄り添い、一緒にみんなの幸せを創っていくまちを目指して、将来像を《市民みんなが幸せを実感できるまち》」としています。次世代に施設にかかる負担を先送りすることなく、最適な施設経営を通じて市民の満足度を高めていきます。

次項から、平成24年度に行った「市民幸せ調査」の一部から松阪市民の幸せ度、住みやすさ、施策別にみる満足度・重要度を紹介します。

3. 「市民幸せ調査」とは

平成24年9月に無作為抽出した3,000人の市民の方を対象としたアンケートです。これは、平成26年度を初年度とする市の総合計画『市民みんなの道標（みちしるべ）～未来につなげるまちづくり計画～』を策定するにあたり、市民のみなさまの幸せや、市の政策・行政サービスに対する意識や考えをお聞きする内容となっています。

(1) 現在の幸せ度

問. あなたは今、幸せだと感じますか。(選択肢は1つだけ)

『幸せである』(※)が7割5分、『幸せでない』(※)は1割

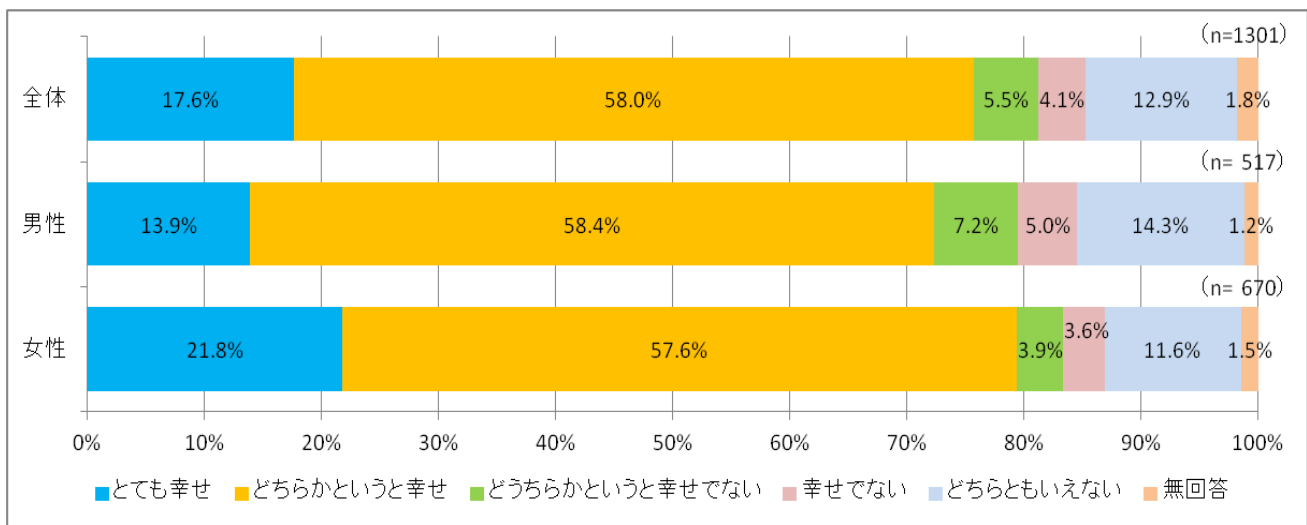
「どちらかという幸せだと感じる」の割合が58.0%で最も高く、次いで「とても幸せだと感じる」17.6%で、合わせて『幸せである』が7割5分となっています。反対に「どちらかという幸せでないと感じる」5.5%、「幸せでないと感じる」4.1%を合わせると1割の人が、今は『幸せでない』と思っています。

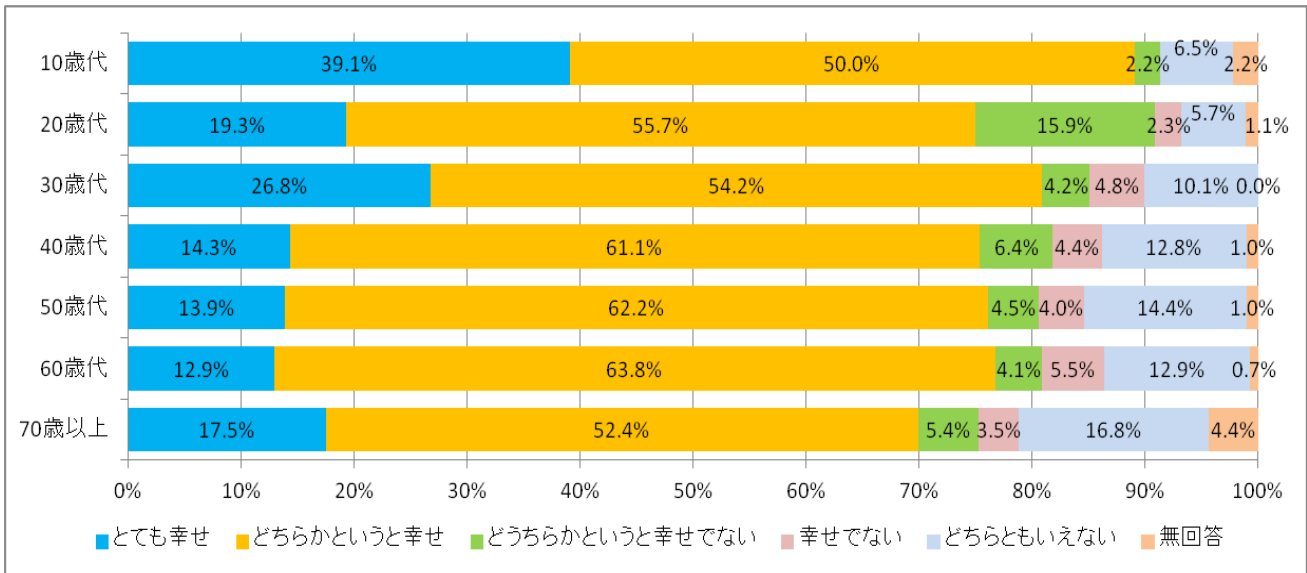
(※)『幸せである』は「とても幸せだと感じる」+「どちらかという幸せだと感じる」

『幸せでない』は「幸せでないと感じる」+「どちらかという幸せでないと感じる」

男女別にみると、女性の方が男性よりも『幸せである』の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代では『幸せでない』の割合が高くなっています。また、70歳以上では「どちらともいえない」と答えた人の割合が他の年齢層よりも高くなっています。





※10 歳代 (n=46)、20 歳代 (n=88)、30 歳代 (n=168)、40 歳代 (n=203)、50 歳代 (n=201)、60 歳代 (n=271)、70 歳以上 (n=315)

(2) 松阪市の住みやすさ

問. あなたは総合的にみて松阪市は住み良いところだと感じますか。(選択肢は1つだけ)

『住みやすい』(※) が 7 割強、『住みにくい』(※) は 2 割弱

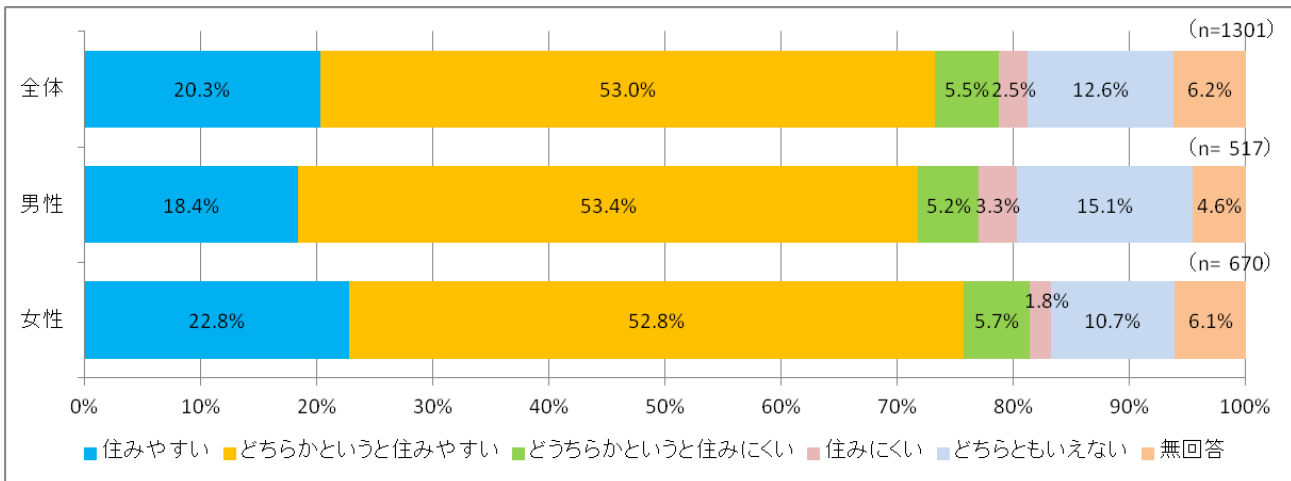
「どちらかという住みやすい」の割合が 53.0%で最も高く、次いで「住みやすい」20.3%で、合わせて 7 割強の人が『住みやすい』と答えています。反対に、「どちらかという住みにくい」の割合は 5.5%、「住みにくい」2.5%で、合わせて『住みにくい』と思っている人は 1 割を下回っています。

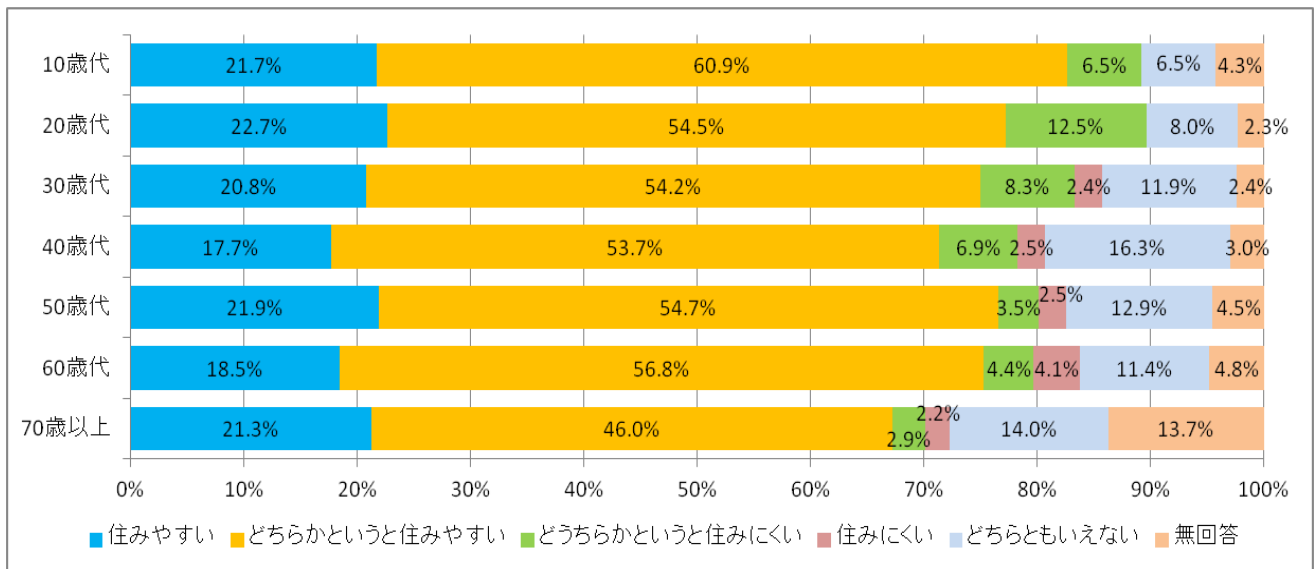
(※) 『住みやすい』は「住みやすい」+「どちらかという住みやすい」

『住みにくい』は「住みにくい」+「どちらかという住みにくい」

男女別にみると、女性の方が男性よりも『住みやすい』の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70 歳以上、40 歳代では『住みやすい』の割合が低くなっています。また、40 歳代では「どちらともいえない」の割合が高くなっています。





※10歳代 (n=46)、20歳代 (n=88)、30歳代 (n=168)、40歳代 (n=203)、50歳代 (n=201)、60歳代 (n=271)、70歳以上 (n=315)

(3) 施策別にみる満足度・重要度

問. 松阪市の政策に対し、あなたの気持ちに最も近いものを次の32項目について、満足度、重要度でそれぞれ1つずつ選んでください。

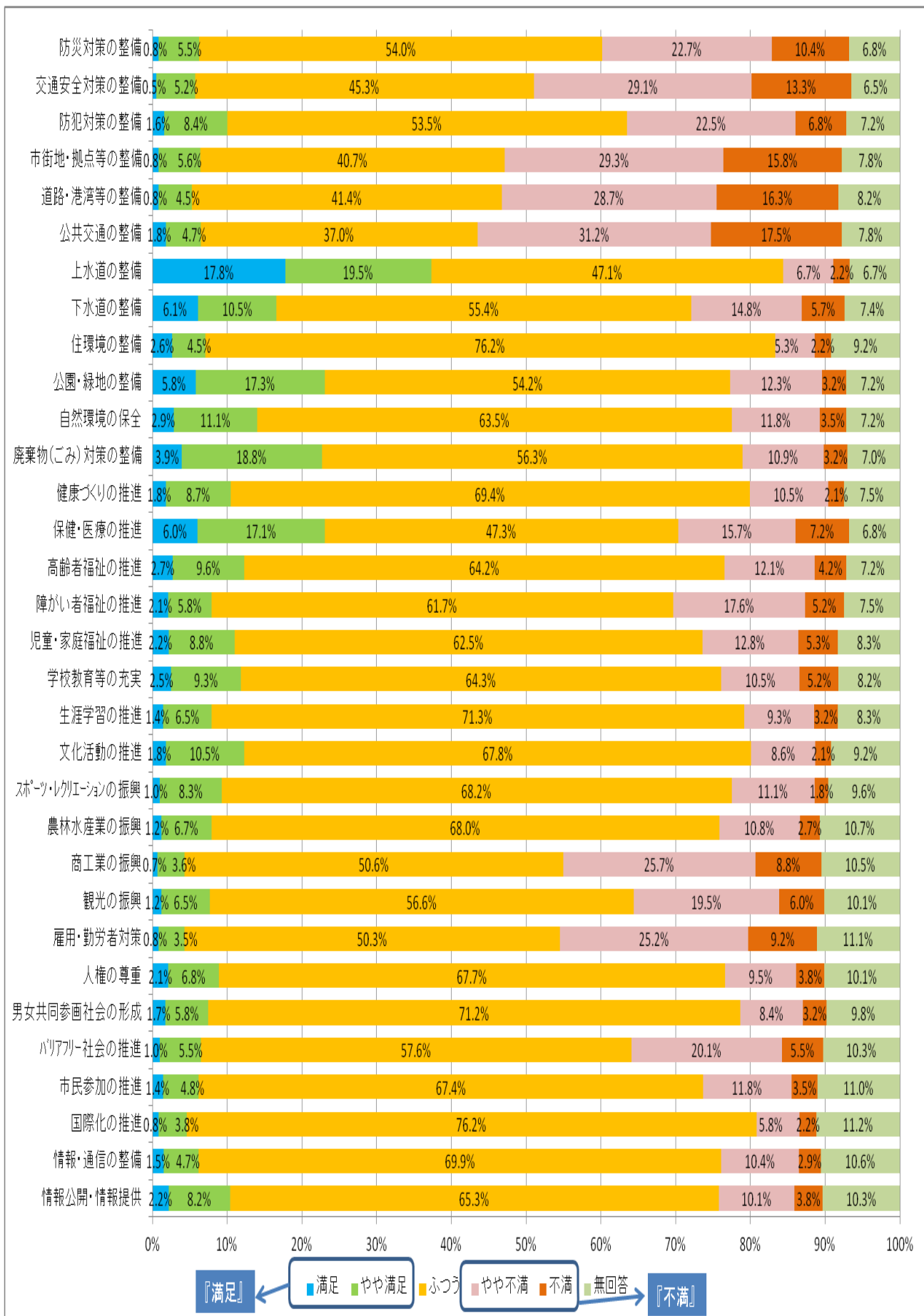
松阪市の政策に対し、32項目の施策について、各項目の満足度と重要度を5段階で評価していただきとりまとめました。

満足度(『満足』)では「上水道の整備 (37.3%)」、「保健・医療の推進 (23.1%)」、「公園・緑地の整備 (23.1%)」、「廃棄物(ごみ)対策の整備 (22.7%)」、「下水道の整備 (16.6%)」で高くなっています。

反対に、『不満』についてみると、「公共交通の整備 (48.7%)」、「市街地・拠点等の整備 (45.1%)」、「道路・港湾等の整備 (45.0%)」、「交通安全対策の整備 (42.4%)」、「商工業の振興 (34.5%)」で満足度は低くなっています。

重要度(『重要』)では「防災対策の整備 (76.6%)」、「道路・港湾等の整備 (74.8%)」、「交通安全対策の整備 (74.0%)」、「防犯対策の整備 (73.2%)」、「保健・医療の推進 (72.0%)」で高くなっています。重要度が比較的低い項目は「国際化の推進 (21.5%)」となっています。

【満足度】



【重要度】

